

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立川口高等学校)

目指す学校像 生徒の可能性を追求し、進路を実現する力と人間力を高める学校

- 重点目標
- 1 高い志と目標を持って、主体的に勉学に取り組む姿勢を育成し学力の向上を図る。
 - 2 部活動・学校行事を通して、協働しながら高い志を持って挑戦する強い心と自ら考えて行動する習慣を養う。
 - 3 地域・家庭、中学校と連携し、伝統を受け継ぎつつ躍進する開かれた学校づくりを目指す。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	10名

学校関係者評価
実施日 令和5年2月7日

年度目標		学校自己評価					
年度目標		年度評価(2月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 続くコロナ禍にあって、多くの生徒が変化に対応しようと努力し、誠実に学習に取り組んでいる。しかし、学習の遅れや不安等の課題が継続している。解消のためには高い志の維持と実現のための学習時間の確保が求められている。</p> <p>生徒の学習習慣を促進させるために、授業の改善と指導と評価の一体化を充実する学習指導力の向上が求められている。</p> <p>生徒が川高で自己実現を目指した活動を安心してできるように、担任・学年・分掌・部活動顧問等が情報を共有して連携し、一人一人の生徒に応じた指導に取り組む必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間以外での学習時間の増加 ・教育の情報化の促進 ・学力の3要素を育成する授業の実施 ・進学に重点を置く学校として全職員の情報共有 ・各取組のふりかえり指導の徹底 ・大学入試改革に向けた継続的な取組 	生徒の学習習慣の定着と学力を向上させる授業の実践	<p>①新学習指導要領に基づき、学力の3要素をバランスよく育成する授業を実施する。</p> <p>②HRプロジェクトやClassroom、BYOD等のICTの積極的な活用を促進する。</p> <p>③オンライン授業を効果的に活用する。</p> <p>④教育の情報化を含め、積極的に教員同士が授業研究、研修参加等を行う。</p> <p>⑤観点別学習評価の導入と改善に取り組む。</p> <p>⑥情報を共有し、校務等の改善に務める。</p>	<p>①学習習慣(授業時間外の学習が全学年の平均2時間以上/1日)が8割以上</p> <p>②プロジェクトや授業動画、補習動画の活用状況</p> <p>③学級閉鎖時等でのオンライン授業の実施回数</p> <p>④年2回の授業公開週間における授業参観の参加人数</p> <p>⑤観点別学習評価等新学習指導要領に関する校内外の研修等の参加</p> <p>⑥グループウェア等を活用して情報共有の仕組や資料の構築</p>	<p>【学習時間は増加傾向が続き、学力を向上させる授業が実践できた】</p> <p>①学習時間が2時間以上となった生徒は、平日11.6%(10.9%)土日祝日20.5%(21.3%)であった。()は昨年度12月比。</p> <p>②授業、講演会、始業式、終業式などに教室のプロジェクト等ICTの活用が進んだ。</p> <p>③英検250名(2級合格14名、準2級合格57名)、漢検57名(2級合格5名、準2級合格9名、3級合格1名)、数検15名(2級合格1名)が受検した。スタディサプリは240名が申し込んだ。</p> <p>④5月と11月の2回実施したが今年も保護者の授業参観は中止した。教員同士の授業見学は延べ65名であった。</p> <p>⑤Googleカレンダーやメールリストを活用し、資料をデジタルで共有するようになってきた。</p>	B	<p>【課題】 授業時間外の学習時間を定着し続ける。</p> <p>【改善策】 教育の情報化をさらに促進させる。継続的な授業の構築と改善を行うことで、新学習指導要領や大学入試制度の変化に対応しながら生徒の学習時間を増やす。教員のスキルに応じた研修の実施により、情報機器の教育活動や校務への活用推進を図る。</p>
		<p>大学入試改革に対応した進路指導体制の整備と充実</p>	<p>①定期考査や模試の勉強計画を立て実行し、実施後のふりかえりを徹底し、継続した指導を行う。</p> <p>②生徒の自律を促しつつ、全学年で学期内や長期休業中の講習会や進学補講を実施する。</p> <p>③生徒との面談を積極的に実施し、きめ細やかな進路指導を行う。</p> <p>④新学習指導要領や新たな入試制度の変化に対応するため、情報収集を出来るだけ行い、校内で情報共有を行う。</p>	<p>①希望進路決定8割以上</p> <p>②講習会・補講へのべ100名以上の生徒が参加</p> <p>③④コロナ禍に配慮したICTの活用や面談の実施</p> <p>③④研修会への積極的な参加や校内検討会の実施</p>	<p>【大学入試改革に対応した進路指導体制を充実することができた】</p> <p>①一般受験80名。進路決定者75(80.4%)%(1/16現在)</p> <p>②平日補講11(18)講座(参加生徒100(250)名)、夏季補講22(22)講座(参加生徒210(200)名)、冬期補講7(8)講座(参加生徒40(50)名)、「スタディサプリ」希望者240(210)名受講</p> <p>③コロナ禍に配慮して授業や面談でのICTを積極的な活用</p> <p>④大学見学会、進研模試分析会、一般受験検討会を実施</p>	B	<p>【課題】 コロナ禍の制限のもとでの継続した取組の改善が必要である。</p> <p>【改善策】 進路指導部を中心に、各学年、各教科と実践内容の共有を図る。同時に生徒に必要な進路行事の見直しを検討する。</p>
2	<p>【現状】 校訓「高く正し」を核に据えた伝統を継続し実践する必要がある。コロナ禍においても基本的な生活習慣の維持と規範意識を意識して、学習と部活動をバランスよく両立させた高校生活の充実が求められている。</p> <p>【課題】 コロナ禍における挨拶、服装、整頓、清掃等の風紀について改善・工夫する必要がある。とくに女子生徒に対する整容指導に工夫やアイデアが求められる。さらにコロナ禍で生活習慣の確立ができず遅刻する生徒がいた。自転車の安全運転・安全点検・交通マナーの向上等の指導の充実が必要である。</p>	組織的な生徒指導体制の下で、行事や部活動等の課外活動の一層の活性化と、生徒の人間力の醸成	<p>①学校行事や部活動等を通してコミュニケーション能力やリーダーシップ、問題解決能力を育成する。</p> <p>②生活委員会の生徒を中心に、主体的に学校生活を改善していくこととする取り組みを積極的に支援する。</p> <p>③主体的に学習と部活動の両立を図ることができる指導体制を確立し、生徒手帳を積極的に活用して生徒一人一人が自ら計画的に時間管理するよう支援する。</p> <p>④通学時の交通安全意識や情報モラルを高める。</p>	<p>①部活動や学校行事の満足度が80%以上が6割以上</p> <p>②挨拶、服装、整頓、清掃等年間目標の実施状況</p> <p>③部活動加入率の推移</p> <p>④生徒の遅刻者数の推移</p> <p>⑤交通安全指導実施状況、交通事故0件日にちの増加など</p>	<p>【組織的な指導体制下で行事や部活動の活性化を行うことができた】</p> <p>①95.2%の生徒が「服装・頭髪・あいさつなどがきちんとできている」と感じており、昨年度より1.7ポイント上昇した。</p> <p>②部活動83.0%(84.3%)学校行事93.3%(93.4%)<昨年度12月比></p> <p>③運動部、文化部あわせて92.0%の生徒が部活動に加入している。昨年度より1.7ポイント下降した。</p> <p>④遅刻者の1日平均の人数は、前年度の6.7人から7.6人に増加した。</p> <p>⑤自転車事故は18件で、昨年度より6件増加した。</p>	A	<p>【課題】 引き続き、コロナ禍における挨拶、服装、整頓、清掃等の風紀について改善・工夫する必要がある。生活習慣の確立ができず遅刻する生徒が増えている。自転車の安全運転・安全点検・交通マナーの向上等の指導の充実が必要である。</p> <p>【改善策】 職員間の共通理解を図り、継続かつ統一した指導により、「高く正し」い人間を育成していく。継続的に携帯電話の安全で正しい使用、依存症の予防等を指導し、更に講演会・情報収集・研修などを行っていく。</p>
		<p>情報発信の定着化を行い、川高ファンを増やすことで保護者や地域の魅力を伝えていく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や部活動ページにおける更新回数のさらなる増加 ・ホームページ記事掲載に関する研修会等の実施 ・学校説明会の参加者数の維持 	<p>①各学年での行事や部活動の予定、実績などを定期的に情報発信する。川高インフォメーションや学校ホームページを活用する。</p> <p>②PTAの活動回数</p> <p>③保護者との連絡や連携を密にし、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>④コロナ禍でできる、地域の中生や地域との交流の充実を図る。</p> <p>⑤「新しい生活様式」のもとで行える学校説明会や、校外の広報活動等を活用して中学生およびその保護者に学校の魅力を伝えるよう工夫を行う。</p>	<p>①記事投稿数とアクセス数の増加</p> <p>②PTAの活動回数</p> <p>③中学校や地域との連携回数</p> <p>④学校説明会等の参加者数増加</p>	<p>【保護者や地域への情報発信を定着させて連携を推進することができた】</p> <p>①記事投稿数は179(227)回、トップページアクセスは89,813(115,234)であった。()は昨年度(1月19日現在)</p> <p>②コロナの影響で進路講演会は中止した。感染症拡大防止策のために、PTA活動は電話、メール等で行った。</p> <p>③7月に里中学校3学年の生徒約200名が本校に来校し、放課後の部活動を見学したり、交流したりした。各部活動が中学校と合同練習や地域交流を行った。</p> <p>④学校説明会には1492名が参加した。コロナ禍で定員と申込期限を設けたため昨年に続き減少した。</p>	A	<p>【課題】 感染防止対策のほか、学校行事、部活動の制限が緩和されはじめたものの、校内の広報活動の縮小傾向が続いた。学校と保護者や地域との連携による理解の共有が必要である。</p> <p>【改善策】 新しい生活様式の中でできるPTA活動を実施する。負担減を意識しつつ代替案を用意して変化に対応していく。オンライン等の活用も含め学校説明会の更なる工夫を継続していく。</p>
3	<p>【現状】 「新しい生活様式」のもと在校生の活動状況や学校生活の様子を学校ホームページや川高インフォメーションを通して情報発信することで、保護者や地域、中学生に本校の魅力を伝えている。学校説明会等の広報活動の内容の充実を図り、保護者や地域との連携を深めていく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や部活動ページにおける更新回数のさらなる増加 ・ホームページ記事掲載に関する研修会等の実施 ・学校説明会の参加者数の維持 	情報発信の定着化を行い、川高ファンを増やすことで保護者や地域の魅力を伝えていく必要がある。	<p>①各学年での行事や部活動の予定、実績などを定期的に情報発信する。川高インフォメーションや学校ホームページを活用する。</p> <p>②PTAの活動回数</p> <p>③保護者との連絡や連携を密にし、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>④コロナ禍でできる、地域の中生や地域との交流の充実を図る。</p> <p>⑤「新しい生活様式」のもとで行える学校説明会や、校外の広報活動等を活用して中学生およびその保護者に学校の魅力を伝えるよう工夫を行う。</p>	<p>①記事投稿数とアクセス数の増加</p> <p>②PTAの活動回数</p> <p>③中学校や地域との連携回数</p> <p>④学校説明会等の参加者数増加</p>	<p>【保護者や地域への情報発信を定着させて連携を推進することができた】</p> <p>①記事投稿数は179(227)回、トップページアクセスは89,813(115,234)であった。()は昨年度(1月19日現在)</p> <p>②コロナの影響で進路講演会は中止した。感染症拡大防止策のために、PTA活動は電話、メール等で行った。</p> <p>③7月に里中学校3学年の生徒約200名が本校に来校し、放課後の部活動を見学したり、交流したりした。各部活動が中学校と合同練習や地域交流を行った。</p> <p>④学校説明会には1492名が参加した。コロナ禍で定員と申込期限を設けたため昨年に続き減少した。</p>	A	<p>【課題】 感染防止対策のほか、学校行事、部活動の制限が緩和されはじめたものの、校内の広報活動の縮小傾向が続いた。学校と保護者や地域との連携による理解の共有が必要である。</p> <p>【改善策】 新しい生活様式の中でできるPTA活動を実施する。負担減を意識しつつ代替案を用意して変化に対応していく。オンライン等の活用も含め学校説明会の更なる工夫を継続していく。</p>
		<p>○中学校では、学力状況調査より振り返りに力を入れている県が伸びているという結果が出ている。重要性を感じ、振り返りの時間を確保している。主体性とは粘り強く学び続けられる生徒であると思う。高校でも生徒の振り返りの時間を大切にしたい。</p> <p>○川口高校の生徒は中学生の時はリーダーの次の生徒が多いのではないかと。勉強だけではなく、これからリーダーシップを学んでいく生徒達だと思う。これからの伸びを期待している。</p> <p>○中学校ではGIGAスクールは当たり前になっている。教材トラブルはあるが、自分が必要な時に利用できるようになっていけばよいのではないかと。中学校でもタブレットの使用については学校差がある。教員のスキルを上げ、日常的に使う場を増やすことを期待している。</p>	<p>○進路指導として、大学に憧れてもらうために大学見学を行うことが必須である。多くの選択肢を示し、継続することで生徒たちのモチベーションの維持、向上につながると思う。</p> <p>○推薦で受験してきた学生は、はなかなかに差がつかないが、川口高校の生徒たちはよく準備をして受験をしていると感じた。</p> <p>○学業と部活動を両立させるためには、大学見学など早い時期に参加させて意識を上げる等の支援が必要。職業教育の指導や、卒業生の活躍の様子を伝える(講演会など)を取り入れたらどうか。</p>	<p>○看護学校では、コミュニケーション能力、倫理観に欠ける生徒は適正に欠けていると判断される。看護実習前には身だしなみ(頭髪、化粧、ネイル等)の指導を行っている。高校と同様だと思う。</p> <p>○部活動を3年間続けられた生徒は進学先で大変でもたいのことは耐えられているように思う。コロナ禍で活動が制限されていたが、また活気ある部活に戻ることを期待する。挑戦しようという心構え(高く正し)を身に付けるために必要な活動は継続してほしい。</p> <p>○中学校では部活動指導者の外部委託が来年度に迫っている。誰が指導するのか、教員の半数以上は土日によらない選択をすると思う。今後、高等学校ではどのように継続をするのか検討が迫られてくると思う。</p>	<p>○高校時代に社会体験(インターンシップ)のようなことができるとよいのではないかと。苦勞や社会の常識を高校生の中に学ぶことは大切。卒業生を活用し、学校に来てもらい交流を深めること等検討を進め学校を活性化していくことが必要である。</p> <p>○文化祭等、一般公開をすることは重要。コロナの前は小学生や地域の子供たちも大勢来校していた。中学受験をする子供も多い地域であり、早めに川口高校を知ってもらうことは生徒募集にもつながるので保護者としても一般公開を復活してほしい。</p> <p>○近隣の中学校とは交流があるが、市全体の交流はまだ薄い。コロナの影響もあるが小さなことから始める等検討をしてほしい。特に部活動単位での交流は積極的に行うことができるのではないかと。部活動の活躍は地域の注目でもある。ぜひ地域に根差した交流をしてほしい。</p>		